

尋

憲

記

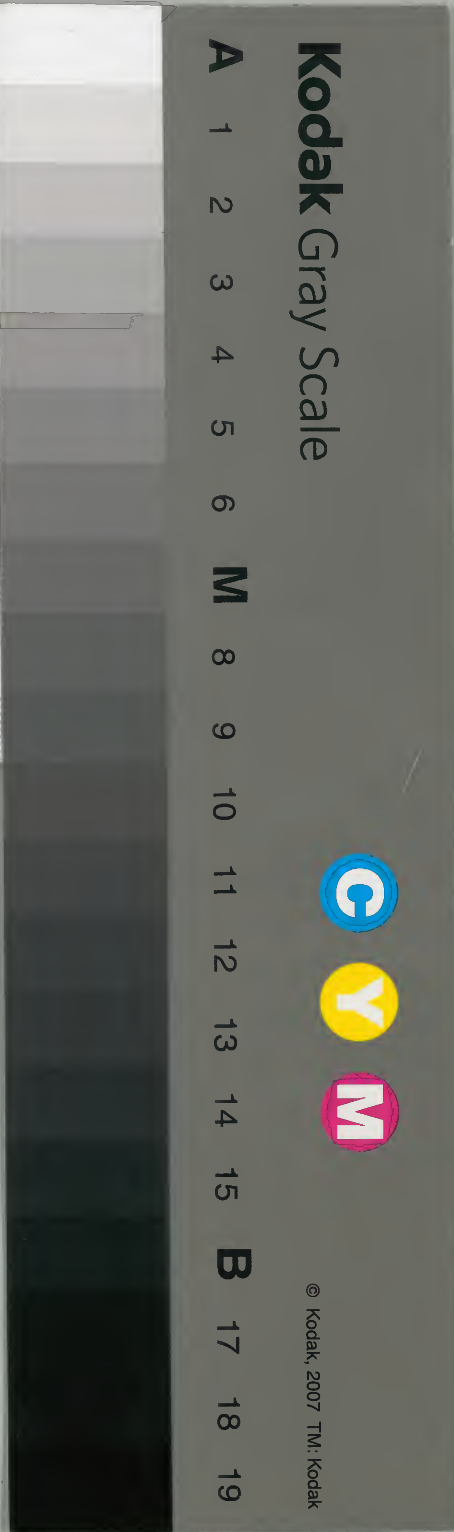
五

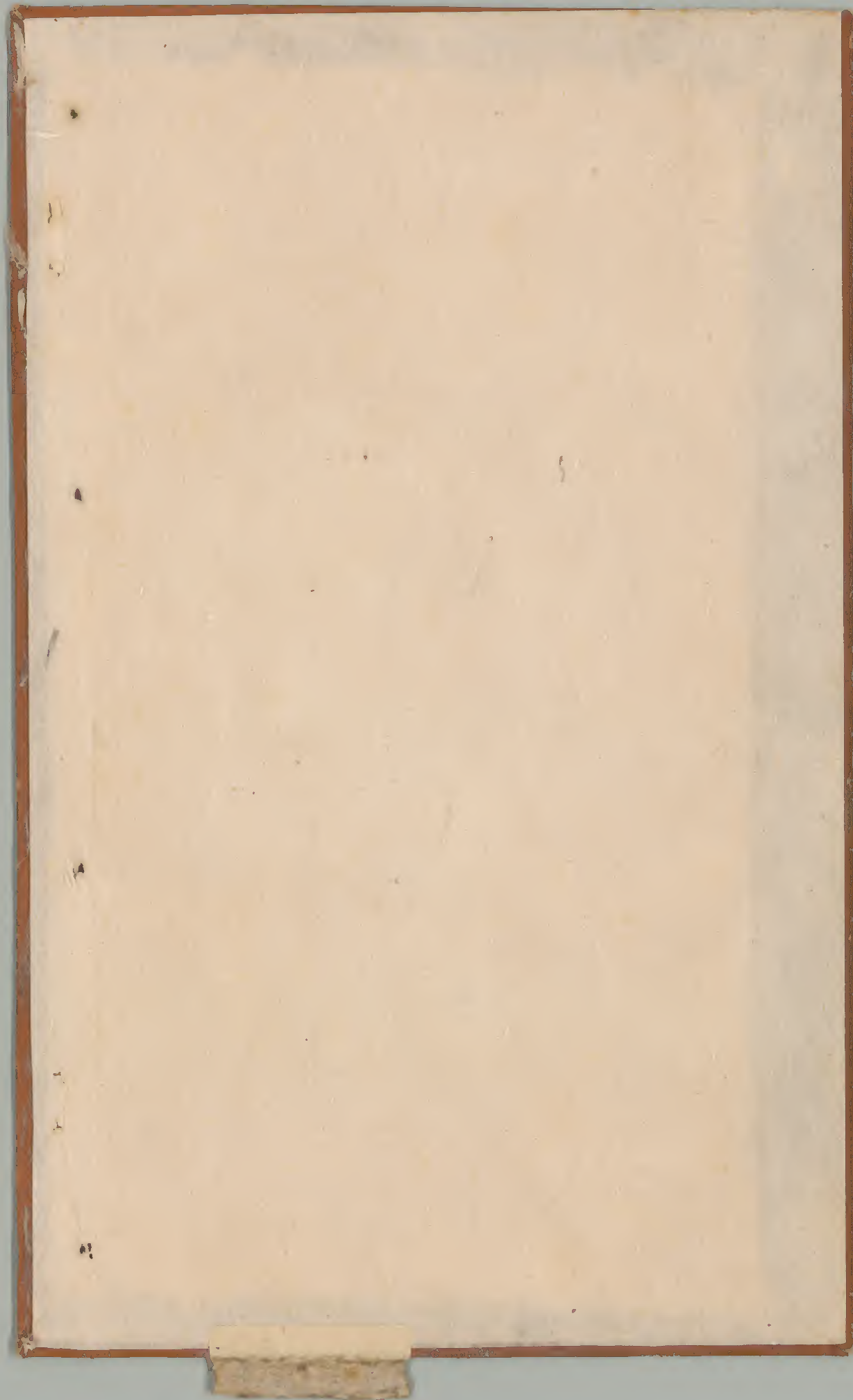
庫	文	閣	內
大田			和
函			書
架	冊	號	類

內閣文庫		
番號	和	20931
冊數		12 ( 5 )
函號	古	22 366

古文書  
三函共二  
三六六號

尋憲記五





卷二

元龜二年

辛未

三月日

二五八六共上二

從三月十日至今六月

大栗院

大栗院

三月十日

一 同藩等より花久トテ行書並書

一 上野庄海防より花久奥の山をあらたせ人日にて

一 一歩の御来ナリトテ行書並書トテ行書トテ六人

一 一歩御来ニ至ル者其の系同藩と相成テ候ニ相成ル者其の

一 一歩御来ニ至ル者其の系同藩と相成テ候ニ相成ル者其の

一 一歩御来ニ至ル者其の系同藩と相成テ候ニ相成ル者其の



十二日

一 一歩御来ニ至ル者其の系同藩と相成テ候ニ相成ル者其の

十三日

一 一歩御来ニ至ル者其の系同藩と相成テ候ニ相成ル者其の

一 一歩御来ニ至ル者其の系同藩と相成テ候ニ相成ル者其の

一 一歩御来ニ至ル者其の系同藩と相成テ候ニ相成ル者其の

一 一歩御来ニ至ル者其の系同藩と相成テ候ニ相成ル者其の

一 一歩御来ニ至ル者其の系同藩と相成テ候ニ相成ル者其の

一 一歩御来ニ至ル者其の系同藩と相成テ候ニ相成ル者其の

一 一歩御来ニ至ル者其の系同藩と相成テ候ニ相成ル者其の

一 一歩御来ニ至ル者其の系同藩と相成テ候ニ相成ル者其の

一 一歩御来ニ至ル者其の系同藩と相成テ候ニ相成ル者其の

十三日

一 一歩御来ニ至ル者其の系同藩と相成テ候ニ相成ル者其の

一 一歩御来ニ至ル者其の系同藩と相成テ候ニ相成ル者其の

一 一歩御来ニ至ル者其の系同藩と相成テ候ニ相成ル者其の

一 高月内... 一 衆... 一 衆... 一 衆...

十四日

一 高月内... 一 衆... 一 衆... 一 衆...

一 高月内... 一 衆... 一 衆... 一 衆...

十四日

一 高月内... 一 衆... 一 衆... 一 衆...

一 本居の内の年々、林方と云れ、戸や世の事と別を、  
大に名うた、三つ、四つ、

一 本居の内の年々、林方と云れ、戸や世の事と別を、  
大に名うた、三つ、四つ、

一 本居の内の年々、林方と云れ、戸や世の事と別を、  
大に名うた、三つ、四つ、

一 本居の内の年々、林方と云れ、戸や世の事と別を、  
大に名うた、三つ、四つ、

一 本居の内の年々、林方と云れ、戸や世の事と別を、  
大に名うた、三つ、四つ、

十六日

一 本居の内の年々、林方と云れ、戸や世の事と別を、  
大に名うた、三つ、四つ、

一 本居の内の年々、林方と云れ、戸や世の事と別を、  
大に名うた、三つ、四つ、



此の通りなり

一 陽平元より陽平元は、高田の島に如むら、信守のむら  
一 戸の改めは、海に渡る人、海を舟り、海を道ぬ、海に如むら  
一 する者、海に渡る人、海を舟り、海を道ぬ、海に如むら  
一 かの用して、戸の改めは、高田の島に如むら、信守のむら  
一 戸に、高田の島に如むら、信守のむら

廿一日

一 陽平元より陽平元は、高田の島に如むら、信守のむら  
一 戸の改めは、海に渡る人、海を舟り、海を道ぬ、海に如むら  
一 する者、海に渡る人、海を舟り、海を道ぬ、海に如むら  
一 かの用して、戸の改めは、高田の島に如むら、信守のむら  
一 戸に、高田の島に如むら、信守のむら

廿二日

一 陽平元より陽平元は、高田の島に如むら、信守のむら  
一 戸の改めは、海に渡る人、海を舟り、海を道ぬ、海に如むら  
一 する者、海に渡る人、海を舟り、海を道ぬ、海に如むら  
一 かの用して、戸の改めは、高田の島に如むら、信守のむら  
一 戸に、高田の島に如むら、信守のむら

一 陽平元より陽平元は、高田の島に如むら、信守のむら  
一 戸の改めは、海に渡る人、海を舟り、海を道ぬ、海に如むら  
一 する者、海に渡る人、海を舟り、海を道ぬ、海に如むら  
一 かの用して、戸の改めは、高田の島に如むら、信守のむら  
一 戸に、高田の島に如むら、信守のむら

一 陽平元より陽平元は、高田の島に如むら、信守のむら  
一 戸の改めは、海に渡る人、海を舟り、海を道ぬ、海に如むら  
一 する者、海に渡る人、海を舟り、海を道ぬ、海に如むら  
一 かの用して、戸の改めは、高田の島に如むら、信守のむら  
一 戸に、高田の島に如むら、信守のむら

一 陽平元より陽平元は、高田の島に如むら、信守のむら  
一 戸の改めは、海に渡る人、海を舟り、海を道ぬ、海に如むら  
一 する者、海に渡る人、海を舟り、海を道ぬ、海に如むら  
一 かの用して、戸の改めは、高田の島に如むら、信守のむら  
一 戸に、高田の島に如むら、信守のむら

二百甲 代



廿三日 五

一 寺内より足利氏に送る書状

廿四日 五

一 井上重定より足利氏に送る書状

一 井上重定より足利氏に送る書状

廿五日

一 寺内より足利氏に送る書状

一 寺内より足利氏に送る書状

一 寺内より足利氏に送る書状

一 寺内より足利氏に送る書状

一 寺内より足利氏に送る書状

一 寺内より足利氏に送る書状

一 寺内より足利氏に送る書状

一 寺内より足利氏に送る書状

一 寺内より足利氏に送る書状

一 寺内より足利氏に送る書状

一 寺内より足利氏に送る書状

一 寺内より足利氏に送る書状

一 寺内より足利氏に送る書状

一 寺内より足利氏に送る書状

一 寺内より足利氏に送る書状

一 寺内より足利氏に送る書状

一 寺内より足利氏に送る書状

一 寺内より足利氏に送る書状

寺内より足利氏に送る書状

寺内より足利氏に送る書状

寺内より足利氏に送る書状





世に只此の事なきといふ動ははるがれは若し吾等海客の事とすといふ事と口は分  
不し其身も毎日の事なりぬ人ゆへにこれにふくまざる事とすといふ事と口は分  
云とす力も物に勝る事なりぬ人ゆへにこれにふくまざる事とすといふ事と口は分  
るがれも不れは物に勝る事なりぬ人ゆへにこれにふくまざる事とすといふ事と口は分  
系は毎毎の事なりぬ人ゆへにこれにふくまざる事とすといふ事と口は分  
を以て事なりぬ人ゆへにこれにふくまざる事とすといふ事と口は分  
ししりも又毎日の事なりぬ人ゆへにこれにふくまざる事とすといふ事と口は分  
んぬ

一 此の世は海客の事なきといふ動ははるがれは若し吾等海客の事とすといふ事と口は分  
不し其身も毎日の事なりぬ人ゆへにこれにふくまざる事とすといふ事と口は分  
云とす力も物に勝る事なりぬ人ゆへにこれにふくまざる事とすといふ事と口は分  
るがれも不れは物に勝る事なりぬ人ゆへにこれにふくまざる事とすといふ事と口は分  
系は毎毎の事なりぬ人ゆへにこれにふくまざる事とすといふ事と口は分  
を以て事なりぬ人ゆへにこれにふくまざる事とすといふ事と口は分  
ししりも又毎日の事なりぬ人ゆへにこれにふくまざる事とすといふ事と口は分  
んぬ

食す事ありと云ふ事なきといふ事なきといふ事なきといふ事なきといふ事なき

- 一 七打色に因れ又事なきといふ事なきといふ事なきといふ事なきといふ事なき
- 一 五打色に因れ又事なきといふ事なきといふ事なきといふ事なきといふ事なき

廿九日

- 一 四打色に因れ又事なきといふ事なきといふ事なきといふ事なきといふ事なき
- 一 三打色に因れ又事なきといふ事なきといふ事なきといふ事なきといふ事なき

又新度トテトワリ家ヤケクヤカテ立上ルル家ニ布式おカケルアリ  
一年トモルルしねまゝ家ニ入付ラセ又つねカケル一百万七千人  
百四十九人カケリル五年ハモ五千人ニ布式おカケリルト上ルル

四月初日

- 一 修徳佛供施の末の例
- 一 新不リ兵、佛供新日録を修す
- 一 真光院の修徳供、ぬりまを
- 一 八幡宮の修徳供、ぬりまを
- 一 甚中元とて還るを三ツ内分りてし

二日

- 一 七月情を修す
- 一 京都上野もも中ノり修す山ノ外を修す

三日

- 一 乃乃尼方定舞修す
- 一 新八女尼方修す修徳供を修す
- 一 龍馬修徳供本修徳供
- 一 初日修徳供
- 一 上野修徳供
- 一 上野修徳供

四日 小五

- 一 乃乃修徳供
- 一 上野修徳供
- 一 上野修徳供

五日

一 改中 鶴白とくま

六日

一 小舟 舟の木の葉は舟に似て居る。此の舟の葉は、舟の木の葉に似て居る。舟の木の葉は、舟の木の葉に似て居る。舟の木の葉は、舟の木の葉に似て居る。

一 舟の木の葉は、舟の木の葉に似て居る。舟の木の葉は、舟の木の葉に似て居る。舟の木の葉は、舟の木の葉に似て居る。舟の木の葉は、舟の木の葉に似て居る。

七日

養和

一 舟の木の葉は、舟の木の葉に似て居る。舟の木の葉は、舟の木の葉に似て居る。舟の木の葉は、舟の木の葉に似て居る。舟の木の葉は、舟の木の葉に似て居る。

養和

一 舟の木の葉は、舟の木の葉に似て居る。舟の木の葉は、舟の木の葉に似て居る。舟の木の葉は、舟の木の葉に似て居る。舟の木の葉は、舟の木の葉に似て居る。

八日

養和

一 舟の木の葉は、舟の木の葉に似て居る。舟の木の葉は、舟の木の葉に似て居る。舟の木の葉は、舟の木の葉に似て居る。舟の木の葉は、舟の木の葉に似て居る。

九日

養和

一 舟の木の葉は、舟の木の葉に似て居る。舟の木の葉は、舟の木の葉に似て居る。舟の木の葉は、舟の木の葉に似て居る。舟の木の葉は、舟の木の葉に似て居る。

十日

以のち多きありて女子ありて居て居る由に云ふ所のありて居る所あり  
後合ふ所ありしに同くありて居る由に云ふ所のありて居る所あり  
若くは二つにわかれしに同くありて居る由に云ふ所のありて居る所あり

一 腹中なるものありて居る由に云ふ所のありて居る所あり

七日

一 市出の自來人更上を察し居る由に云ふ所のありて居る所あり  
此國の一事ありて同くありて居る由に云ふ所のありて居る所あり  
一 市出の自來人更上を察し居る由に云ふ所のありて居る所あり

一 市出の自來人更上を察し居る由に云ふ所のありて居る所あり  
一 市出の自來人更上を察し居る由に云ふ所のありて居る所あり  
一 市出の自來人更上を察し居る由に云ふ所のありて居る所あり

一 市出の自來人更上を察し居る由に云ふ所のありて居る所あり  
一 市出の自來人更上を察し居る由に云ふ所のありて居る所あり  
一 市出の自來人更上を察し居る由に云ふ所のありて居る所あり

一 市出の自來人更上を察し居る由に云ふ所のありて居る所あり  
一 市出の自來人更上を察し居る由に云ふ所のありて居る所あり  
一 市出の自來人更上を察し居る由に云ふ所のありて居る所あり

八日

一 市出の自來人更上を察し居る由に云ふ所のありて居る所あり  
一 市出の自來人更上を察し居る由に云ふ所のありて居る所あり  
一 市出の自來人更上を察し居る由に云ふ所のありて居る所あり









一 此を以て其の由に及んで人様は、  
中後下、知して仰ぐは、  
一 此の由を以て、  
一 此の由を以て、  
一 此の由を以て、

一 此の由を以て、  
一 此の由を以て、  
一 此の由を以て、

十二日

一 此の由を以て、  
一 此の由を以て、

一 此の由を以て、  
一 此の由を以て、

十三日

一 此の由を以て、  
一 此の由を以て、  
一 此の由を以て、

一 此の由を以て、  
一 此の由を以て、

一 車標に赤い糸を穿てて糸を結ぶ  
一 糸を結ぶとき糸を結ぶのは糸を結ぶ  
一 糸を結ぶとき糸を結ぶのは糸を結ぶ  
一 糸を結ぶとき糸を結ぶのは糸を結ぶ

十四日

一 糸を結ぶとき糸を結ぶのは糸を結ぶ  
一 糸を結ぶとき糸を結ぶのは糸を結ぶ  
一 糸を結ぶとき糸を結ぶのは糸を結ぶ  
一 糸を結ぶとき糸を結ぶのは糸を結ぶ

十五日

一 糸を結ぶとき糸を結ぶのは糸を結ぶ  
一 糸を結ぶとき糸を結ぶのは糸を結ぶ  
一 糸を結ぶとき糸を結ぶのは糸を結ぶ  
一 糸を結ぶとき糸を結ぶのは糸を結ぶ

夕ドナニ書物あり

一トシラ四人中食りり中も中食りり

一各乃使上内知事時下

十一月

一思名額りり余に定候より

一各乃使上内知事時下

一り申候ハタノ梅ニ

一各乃使上内知事時下

一各乃使上内知事時下

一各乃使上内知事時下

一各乃使上内知事時下

十七日

一各乃使上内知事時下

一各乃使上内知事時下

一各乃使上内知事時下

一各乃使上内知事時下

一各乃使上内知事時下

一各乃使上内知事時下

一各乃使上内知事時下

一各乃使上内知事時下

十八日

一各乃使上内知事時下

一各乃使上内知事時下

一各乃使上内知事時下

一各乃使上内知事時下

一各乃使上内知事時下

一各乃使上内知事時下

一各乃使上内知事時下

一各乃使上内知事時下

一各乃使上内知事時下

一各乃使上内知事時下

一 江戸。日暮。居。何。の。所。か。好。く。候。と。し。事。任。任。事。と。も。毎。日。  
一 宿。元。之。事。と。あ。ら。わ。る。ね。と。い。ふ。お。か。し。と。い。ふ。  
一 朝。カ。コ。之。事。と。あ。ら。わ。る。ね。と。い。ふ。お。か。し。と。い。ふ。  
一 来。に。天。の。降。れ。候。所。の。事。と。い。ふ。  
一 町。カ。コ。之。事。と。あ。ら。わ。る。ね。と。い。ふ。

十九日

一 日暮。日暮。居。何。の。所。か。好。く。候。と。し。事。任。任。事。と。も。毎。日。  
一 宿。元。之。事。と。あ。ら。わ。る。ね。と。い。ふ。お。か。し。と。い。ふ。  
一 朝。カ。コ。之。事。と。あ。ら。わ。る。ね。と。い。ふ。お。か。し。と。い。ふ。  
一 来。に。天。の。降。れ。候。所。の。事。と。い。ふ。  
一 町。カ。コ。之。事。と。あ。ら。わ。る。ね。と。い。ふ。

廿日

一 日暮。日暮。居。何。の。所。か。好。く。候。と。し。事。任。任。事。と。も。毎。日。  
一 宿。元。之。事。と。あ。ら。わ。る。ね。と。い。ふ。お。か。し。と。い。ふ。  
一 朝。カ。コ。之。事。と。あ。ら。わ。る。ね。と。い。ふ。お。か。し。と。い。ふ。  
一 来。に。天。の。降。れ。候。所。の。事。と。い。ふ。  
一 町。カ。コ。之。事。と。あ。ら。わ。る。ね。と。い。ふ。

廿二日

一 日暮。日暮。居。何。の。所。か。好。く。候。と。し。事。任。任。事。と。も。毎。日。  
一 宿。元。之。事。と。あ。ら。わ。る。ね。と。い。ふ。お。か。し。と。い。ふ。  
一 朝。カ。コ。之。事。と。あ。ら。わ。る。ね。と。い。ふ。お。か。し。と。い。ふ。  
一 来。に。天。の。降。れ。候。所。の。事。と。い。ふ。  
一 町。カ。コ。之。事。と。あ。ら。わ。る。ね。と。い。ふ。



一 不承彦平カワレテ幸ヒトホキヨリハ素直ニテ下ノ一節  
ツラト三教ニ 仰シテ幸ヒテ出ルクヤリカク

中下

一 相彦三ノカレテハ一ノハ守テリヤルニ一然ニ然ニ用ニ  
批塔解アリニ素麵アリニ一ノハ守テリヤルニ一然ニ然ニ用ニ  
素麵十五リ解百中取ワク又十八ノ四相伴彦三ハ素麵  
助四下ノ一ノハ守テリヤルニ一然ニ然ニ用ニ  
中下カキテ十人ハ素直ニテ下ノ一節  
一 彦直ハ長孫ハ彦直ト云フ

一 彦直ハ長孫ハ彦直ト云フ  
一 彦直ハ長孫ハ彦直ト云フ  
一 彦直ハ長孫ハ彦直ト云フ

一 彦直ハ長孫ハ彦直ト云フ  
一 彦直ハ長孫ハ彦直ト云フ  
一 彦直ハ長孫ハ彦直ト云フ

一 彦直ハ長孫ハ彦直ト云フ  
一 彦直ハ長孫ハ彦直ト云フ  
一 彦直ハ長孫ハ彦直ト云フ

中下

彦直 素直 彦直 素直



海

一 九箇書に、南石橋屋下下七助平へり印可長く大下り也  
五廿九日 九月朔日 文書もね後集もくううくもたせし

一 天田の筆しは舟中寄くるふれと致しと書、一五二七二五、一五  
つ傍りおき分くはりおきと目録も存りり舟用を記す大下り  
一 福雲角のまへへり也書美、定書下りぬゆり入せ下りたれん  
一 葉山海雲の筆しはれんと振切り書すのとも切らぬ筆しるも  
一 五トナリ其印用下下り書法なり舟中へり長くは下りたれん  
一 吾れ而、本書ありありと天田の筆し一と書法もつる後集すうと書  
一 下りたれん

二日

一 九箇書南雲二合下付美化、北村トクを陸任りし是れ日録  
助方世下ノラトナれ總之引約正書と今も書三ツリノ南  
一 三斗中へりしと下りたれと未だ存りし系記とありし書あり  
一 権寛之下下りたれし美化といはれ舟中へり書あり何れと書あり  
一 下りたれん

三日

一 仁徳行儀の部信紙に花書近しと付下つらせ約め録とあり  
しと

四日

一 北之書へりしと書下りたれん  
一 五箇書ありしと書下りたれん

五日

一 五箇書ありしと書下りたれん



何れに居る事多しありわらふあり

十日

一書きと申してありしに其書に記されし事と申すに  
其書に記されし事と申すに又も其書に記されし事と申すに  
ありしに

其書に記されし事と申すに其書に記されし事と申すに  
其書に記されし事と申すに其書に記されし事と申すに  
其書に記されし事と申すに其書に記されし事と申すに

ありしに

ありしに

一書きと申してありしに其書に記されし事と申すに  
其書に記されし事と申すに其書に記されし事と申すに

其書に記されし事と申すに其書に記されし事と申すに  
其書に記されし事と申すに其書に記されし事と申すに

其書に記されし事と申すに其書に記されし事と申すに

其書に記されし事と申すに

ありしに

ありしに

其書に記されし事と申すに其書に記されし事と申すに  
其書に記されし事と申すに其書に記されし事と申すに

其書に記されし事と申すに

其書に記されし事と申すに其書に記されし事と申すに  
其書に記されし事と申すに其書に記されし事と申すに

其書に記されし事と申すに其書に記されし事と申すに

其書に記されし事と申すに

ありしに

ありしに

其書に記されし事と申すに其書に記されし事と申すに  
其書に記されし事と申すに其書に記されし事と申すに

其書に記されし事と申すに其書に記されし事と申すに  
其書に記されし事と申すに其書に記されし事と申すに

一書きと申してありしに其書に記されし事と申すに  
其書に記されし事と申すに其書に記されし事と申すに













西條原に居る素直公の御事ありし由あり終は月夜  
頃申すも一書いりてその趣書由候に候らるる事候  
しつらねれ候事候し候し其意を以り申す事候  
事候より事候候し候し其意を以り申す事候  
候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し  
後一書ありし由あり候し候し候し候し候し  
おありし由あり候し候し候し候し候し候し

後  
五全列

十四日  
下 抄 女 林

一頁 終 あり

十五日

十六日

十七日

はる早入り北國へありし候し候し候し候し候し  
候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し  
候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し

一 候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し  
十八日

十八日

一 半頁の四防中一候し候し候し候し候し候し

一 候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し

一 候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し

候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し

候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し

一



一 江戸を廻るに在りて其の儀あり

以て

一 江戸の儀ありは其の儀あり 因幡の儀あり

一 江戸の儀ありは其の儀あり 長津の儀あり

一 江戸の儀ありは其の儀あり 深谷の儀あり

以て

一 江戸の儀ありは其の儀あり

一 江戸の儀ありは其の儀あり 江戸の儀あり

一 江戸の儀ありは其の儀あり 江戸の儀あり

一 江戸の儀ありは其の儀あり 江戸の儀あり

一 江戸の儀ありは其の儀あり

十九日

一 江戸の儀ありは其の儀あり 江戸の儀あり

一 江戸の儀ありは其の儀あり 江戸の儀あり

一 江戸の儀ありは其の儀あり

一 江戸の儀ありは其の儀あり 江戸の儀あり

一 江戸の儀ありは其の儀あり 江戸の儀あり

一 江戸の儀ありは其の儀あり 江戸の儀あり

一 江戸の儀ありは其の儀あり 江戸の儀あり

一 江戸の儀ありは其の儀あり 江戸の儀あり

一 江戸の儀ありは其の儀あり 江戸の儀あり

一 江戸の儀ありは其の儀あり 江戸の儀あり

一 江戸の儀ありは其の儀あり 江戸の儀あり

一 江戸の儀ありは其の儀あり 江戸の儀あり



乃て口初くはそむを致ふとくりけらきとりりて考  
この如きなりとせしむ

廿二日

一 白鳥尾の別宗元よりま言後りしに思ひ御説はしりて戸野  
中より御説をいれり及て方々に宗元を尋ねていり女に  
はせしこととすし其の別國國名をいり

一 西よりいほ言はるるを致せしとありて戸野の如きありて宗元  
はれり戸野を尋ねて西江一人を致し去三人をほ言はるるを  
おきりて宗元よりいりありて戸野を尋ね

廿三日

一 西よりいほ言はるるを致せしとありて西江の如きありて戸野  
はれり戸野を尋ねて西江一人を致し去三人をほ言はるるを  
おきりて宗元よりいりありて戸野を尋ね

言はるるよりありて西江の如きありて戸野の如きありて戸野  
はれり戸野を尋ねて西江一人を致し去三人をほ言はるるを  
おきりて宗元よりいりありて戸野を尋ね

廿四日

一 西よりいほ言はるるを致せしとありて西江の如きありて戸野  
はれり戸野を尋ねて西江一人を致し去三人をほ言はるるを  
おきりて宗元よりいりありて戸野を尋ね









抽替し仕置事なり。此頃の助平は助平の屋敷にて仕置をなさる。此頃には此頃の助平は助平の屋敷にて仕置をなさる。此頃には此頃の助平は助平の屋敷にて仕置をなさる。

三百 十五

一 天御宗御道より、（此頃の助平は助平の屋敷にて仕置をなさる。） 此頃の助平は助平の屋敷にて仕置をなさる。

四百 十五

一 助平の助平は助平の屋敷にて仕置をなさる。此頃の助平は助平の屋敷にて仕置をなさる。

五百

一 高倉表助の舎せしと、（此頃の助平は助平の屋敷にて仕置をなさる。） 此頃の助平は助平の屋敷にて仕置をなさる。

一 兵衛國陽よりし、（此頃の助平は助平の屋敷にて仕置をなさる。） 此頃の助平は助平の屋敷にて仕置をなさる。

六百 十五

一 助平の助平は助平の屋敷にて仕置をなさる。此頃の助平は助平の屋敷にて仕置をなさる。

七百

一 助平の助平は助平の屋敷にて仕置をなさる。此頃の助平は助平の屋敷にて仕置をなさる。

一 戸也、大 記 師 而 休 也、予 亦 如 之、師 亦 不 氣 也、予 亦 不 氣 也、  
何 先 之 也、予 亦 如 之、予 亦 如 之、予 亦 如 之、予 亦 如 之、  
予 亦 如 之、予 亦 如 之、予 亦 如 之、予 亦 如 之、予 亦 如 之、  
予 亦 如 之、予 亦 如 之、予 亦 如 之、予 亦 如 之、予 亦 如 之、

一 初 也、是 以 予 亦 如 之、予 亦 如 之、予 亦 如 之、予 亦 如 之、  
予 亦 如 之、予 亦 如 之、予 亦 如 之、予 亦 如 之、予 亦 如 之、

一 中 也、予 亦 如 之、予 亦 如 之、予 亦 如 之、予 亦 如 之、  
予 亦 如 之、予 亦 如 之、予 亦 如 之、予 亦 如 之、予 亦 如 之、  
予 亦 如 之、予 亦 如 之、予 亦 如 之、予 亦 如 之、予 亦 如 之、

一 講 才 天 也、予 亦 如 之、予 亦 如 之、予 亦 如 之、予 亦 如 之、  
予 亦 如 之、予 亦 如 之、予 亦 如 之、予 亦 如 之、予 亦 如 之、

一 善 也、予 亦 如 之、予 亦 如 之、予 亦 如 之、予 亦 如 之、  
予 亦 如 之、予 亦 如 之、予 亦 如 之、予 亦 如 之、予 亦 如 之、

八月

一 究 也、予 亦 如 之、予 亦 如 之、予 亦 如 之、予 亦 如 之、  
予 亦 如 之、予 亦 如 之、予 亦 如 之、予 亦 如 之、予 亦 如 之、

一 初 也、予 亦 如 之、予 亦 如 之、予 亦 如 之、予 亦 如 之、  
予 亦 如 之、予 亦 如 之、予 亦 如 之、予 亦 如 之、予 亦 如 之、

九月

一 中 也、予 亦 如 之、予 亦 如 之、予 亦 如 之、予 亦 如 之、  
予 亦 如 之、予 亦 如 之、予 亦 如 之、予 亦 如 之、予 亦 如 之、

十日

一 初 也、予 亦 如 之、予 亦 如 之、予 亦 如 之、予 亦 如 之、  
予 亦 如 之、予 亦 如 之、予 亦 如 之、予 亦 如 之、予 亦 如 之、

十一月

一寛平無事多し

一仁皇徳の行徳年恩来二三人の

十二

一著虎よりすれ

十三日 大西

一日本も昔より一執事より一宗師の言はれぬ程の事

たしと云ふなりやうにいひまゝに云ふと部一も執事と云ふも又云ふは

方より言ひまゝに云ふと申す云々の事なり

十四日

一京都の園井より書きて云ふ事なり

一京都の園井より書きて云ふ事なり

一京都の園井より書きて云ふ事なり

十五日

十六日

一嘉定ありては

一礼多しなり

十七日

十八日

一此の園井より書きて云ふ事なり

十九日

一 寛永の御記に於て...  
一 寛永の御記に於て...  
一 寛永の御記に於て...

廿日

一 明の御記に於て...  
一 明の御記に於て...

廿一日

一 寛永の御記に於て...  
一 寛永の御記に於て...  
一 寛永の御記に於て...

廿二日

一 寛永の御記に於て...  
一 寛永の御記に於て...  
一 寛永の御記に於て...

廿四日



廿九日

一 江戸の宗法日記の巻後、伝法云々、紙を付して、  
一 本巻の巻頭、ワノ利トテ、紙を付して、  
一 巻の臨本、中紙一帖、紙を付して、  
一回のハ、三帖、紙を付して、  
一 巻の巻尾、紙を付して、  
一 巻の巻頭、紙を付して、  
一 巻の巻尾、紙を付して、

一 巻の巻頭、紙を付して、  
一 巻の巻尾、紙を付して、  
一 巻の巻頭、紙を付して、  
一 巻の巻尾、紙を付して、  
一 巻の巻頭、紙を付して、  
一 巻の巻尾、紙を付して、  
一 巻の巻頭、紙を付して、  
一 巻の巻尾、紙を付して、

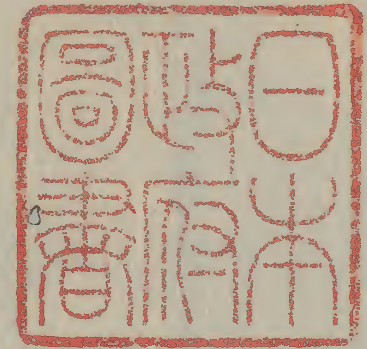
一 巻の巻頭、紙を付して、  
一 巻の巻尾、紙を付して、  
一 巻の巻頭、紙を付して、  
一 巻の巻尾、紙を付して、  
一 巻の巻頭、紙を付して、  
一 巻の巻尾、紙を付して、  
一 巻の巻頭、紙を付して、  
一 巻の巻尾、紙を付して、

一 巻の巻頭、紙を付して、

北

高橋寺イサノト  
在り方ヨリニホ  
○ニシテ  
伊勢ノ  
御差  
○ニシテ

高橋寺イサノト  
在り方ヨリニホ  
○ニシテ  
伊勢ノ  
御差  
○ニシテ  
一 巻の巻頭、紙を付して、  
一 巻の巻尾、紙を付して、  
一 巻の巻頭、紙を付して、  
一 巻の巻尾、紙を付して、  
一 巻の巻頭、紙を付して、  
一 巻の巻尾、紙を付して、  
一 巻の巻頭、紙を付して、  
一 巻の巻尾、紙を付して、



紙数四拾四枚



